

## 第3章 関連文化財群の設定と取組の展開

### 第1節 関連文化財群の設定

#### 1 関連文化財群の基本的な考え方と設定

##### (1) 関連文化財群の設定に関わる基本的な考え方

関連文化財群とは、「有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたもの」（「歴史文化基本構想」策定ハンドブック：文化庁文化財部）です。

このように関連する複数の文化財を、関連文化財群として捉え、一体的に保存・活用していくことは、文化財の魅力を高めるとともに、魅力的な形でかつ分かりやすく価値を伝えていくための効果的な方策の一つです。

また、個々の文化財の価値や魅力に加え、それらがつながりあい相乗効果を発揮することによって“群”としての価値や魅力が顕在化され、見学者・来訪者の増加にもつながることが期待されます。また、地域の文化財を、ネットワークという形で、周辺環境を含めて総合的に保存・活用することにつながります。

なお、出雲市においては、関連文化財群における「文化財」を「歴史文化」と捉え、地名や方言、食文化なども対象の範囲とします。

こうした点を踏まえ、出雲市の文化財を相互に関連づけて保存・活用するため、次のような基本的な考え方(基準)に基づき、関連文化財群を設定します。

##### 【関連文化財群の設定に関わる基本的な考え方(基準)】

###### ●文化財相互をつなぐテーマが見いだせること

文化財相互に、歴史的・地域的な関連性があり、つながりを持って保存・活用するテーマ・ストーリーを見いだせることとします。

###### ●一定のエリアを超えた広がり、分布があること

関連する文化財が、原則として旧市町の範囲を超えて分布していることとします。

###### ●関連文化財群を構成する文化財の状況や価値が把握されていること

関連文化財群を構成する文化財は、その現状や価値などが把握されていることとします。ただし、今後、文化財の調査を行うことが明らかなものは含めることとします。

なお、関連文化財群をめぐるルート沿いやその近くにある文化財等を、関連文化財群と連携させて保存・活用を図ることを妨げるものではありません。

###### ●長く保存・伝承されてきていること

保存・伝承され、現在存在している文化財を基本とします。

ただし、民俗芸能など復活が期待されるものを含むことは可能とします。

## (2) 関連文化財群の設定

前記の関連文化財群の設定に関わる基本的な考え方(基準)を踏まえ、まず、基準に適合すると想定できる主要な文化財(歴史文化)を取り上げ、次に関連づけの着眼点を見だし、それを踏まえて関連文化財群のテーマを設定(ネーミング)しました。

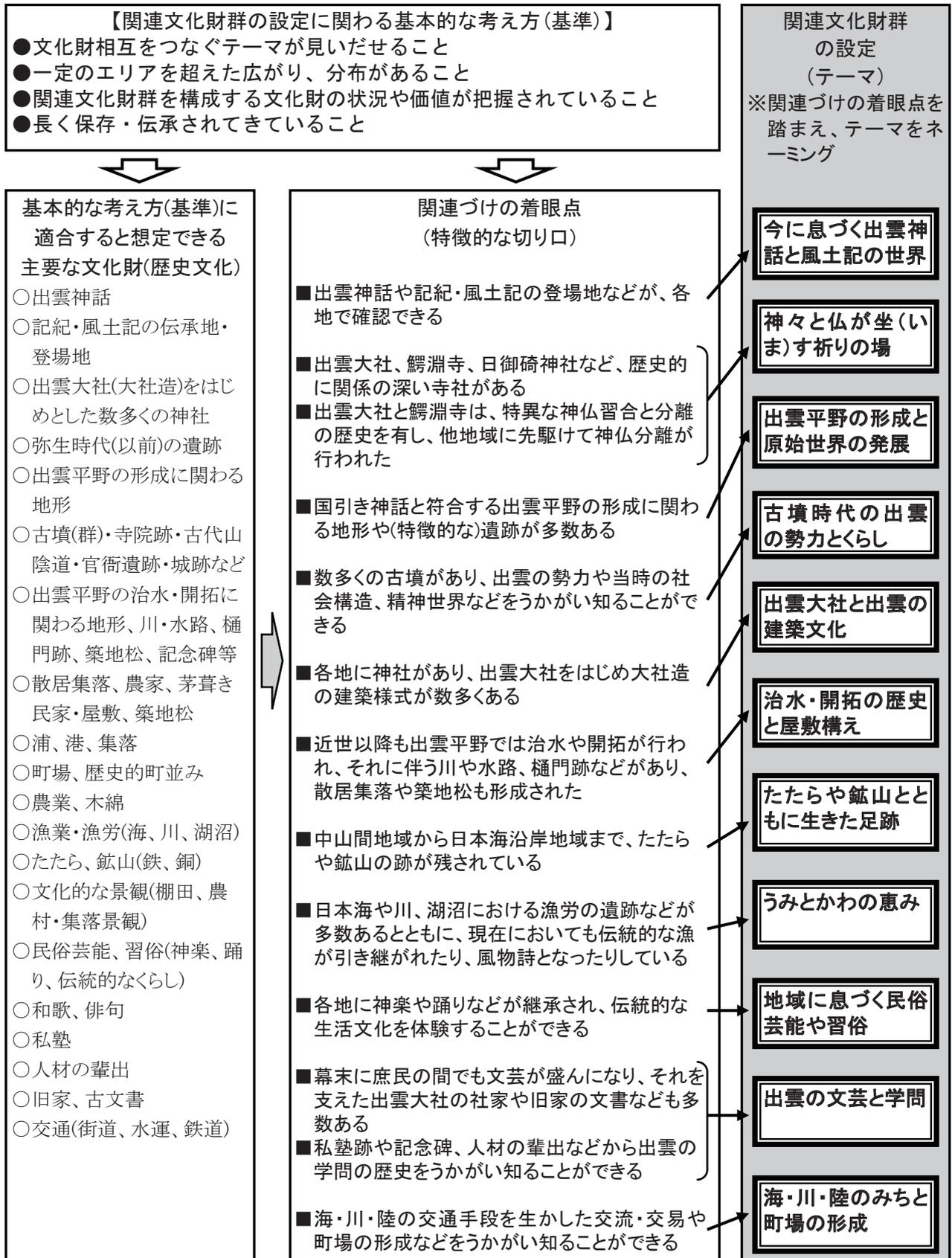


図 3-1 関連文化財群の設定

## 2 出雲市における関連文化財群

出雲市における関連文化財群は、前記の基準及び文化財の歴史的・地理的な内容や特色を踏まえ、テーマ(ネーミング)、関連性の視点(切り口)、主な構成要素(歴史文化)を整理して設定します。

関連文化財群を構成する文化財(歴史文化遺産)は、複数の関連文化財群に関わるものがあるとともに、歴史文化保存活用区域に含まれる場合があります。つまり、個々の文化財は多様な価値を有しており、そうした点を生かして活用していこうとするものです。また、複数の関連文化財群の利用も意図しています。

表 3-1 関連文化財群

1 / 2

| テーマ<br>(ネーミング)   | 関連性の視点(切り口)<br>◎ストーリーのポイント  | 主な構成要素(歴史文化)<br>★は指定等、☆は未指定等   |
|--|---|--|
| (1) 今に息づく<br>出雲神話と風土<br>記の世界<br>～連綿と歴史文<br>化を引き継ぐ出<br>雲～     | ○今も身近に存在する記紀・風土記の伝承地・登場地、記載事項などに由来する関連文化財群<br>◎記紀の伝承地や風土記の登場地を今でも目の当たりにして体感できる  | ★出雲大社<br>★日御碕神社<br>★須佐神社<br>☆地名・地域：菟の長浜(稲佐の浜)、杵築、日御碕…<br>☆長浜神社<br>☆韓竈神社 など                           |
| (2) 神々と仏が<br>坐す祈りの場<br>～出雲特有の神<br>仏習合と神仏分<br>離～              | ○国中第一の「霊神」「伽藍」と呼ばれ中世に隆盛を極めた出雲大社と鰐淵寺。日御碕神社なども含め、北山を舞台に信仰の中心となり中央とも強く結びついていた当時の様子を示す関連文化財群<br>◎神仏習合と神仏分離に至るまでの出雲大社と鰐淵寺、そして、日御碕神社や大寺薬師の仏像などから信仰の歴史が学べる | ★出雲大社<br>★日御碕神社<br>★鰐淵寺境内<br>★鰐淵寺の神像・仏像<br>★大寺薬師の仏像<br>★関連文書(千家家・北島家・鰐淵寺文書など)<br>☆鰐淵寺境内の四至・峠・一丁地蔵 など |
| (3) 出雲平野の<br>形成と原始世界<br>の発展<br>～国引き神話と<br>符合する平野の<br>形成と遺跡群～ | ○出雲平野の形成に伴って人々の生活の場が増加し発展していく様子を示す関連文化財群<br>◎出雲平野の形成に伴って増加するムラが次第にクニへと発展する様子が遺跡を通して学べる  | ★荒神谷遺跡と出土品<br>★西谷墳墓群と出土品<br>★猪目洞窟遺跡と出土品<br>★矢野遺跡(矢野貝塚)<br>☆下古志遺跡<br>☆斐伊川・神戸川<br>☆神西湖(神門水海) など        |
| (4) 古墳時代の<br>出雲の勢力とく<br>らし<br>～社会構造と精<br>神世界～                | ○当時の社会構造や人々の精神世界をうかがい知ることができる古墳を中心とした関連文化財群<br>◎近年の調査研究成果などから、古墳時代の社会構造、精神世界を垣間見る   | ★今市大念寺古墳<br>★上塩冶築山古墳<br>★国富中村古墳<br>★西谷墳墓群<br>★北光寺古墳<br>★神庭岩船山古墳<br>☆中野美保遺跡 など                        |
| (5) 出雲大社と<br>出雲の建築文化<br>～大社造・神社建<br>築の美と精神性<br>～             | ○出雲地域を特徴づける大社造を中心に、神社建築をつなぐ関連文化財群<br>◎大社造の神社を中心に、出雲の建築の美と精神性などを見て、知って、学べる   | ★出雲大社<br>★日御碕神社<br>★須佐神社<br>☆長浜神社<br>☆韓竈神社<br>☆青木遺跡 など   |
| (6) 治水・開拓<br>の歴史と屋敷構<br>え<br>～水と生き、農地<br>を開拓した先人<br>たち～      | ○近世以降の斐伊川改修とそれに伴う新田開発や、高瀬川、平田船川などの水運に係る関連文化財群<br>◎川を治め、農地を開拓し、築地松のある屋敷を構えた先人たちの歴史が学べる   | ★原鹿の旧豪農屋敷<br>★出雲屋敷(出雲文化伝承館)<br>☆宍道湖・神西湖周辺の開拓<br>☆築地松、茅葺き民家、屋敷<br>☆開拓者(大梶七兵衛ほか)の碑 など                  |

表 3-1 関連文化財群

| テーマ<br>(ネーミング)                                  | 関連性の視点(切り口)<br>◎ストーリーのポイント  | 主な構成要素(歴史文化)<br>★は指定等、☆は未指定等  |
|---|---|---|
| (7) たたらや鉾山とともに生きてきた足跡<br>～鉄や銅などをつくり運び出してきた歴史文化～ | ○たたら製鉄や銅の採鉱とそれらの運搬などにちなんだ関連文化財群<br>◎たたら跡や港、鉾山跡などからかつてこの地で栄えた産業の歴史が学べる   | ★田儀櫻井家たたら製鉄遺跡<br>★郷城桂の木(郷城たたら跡)<br>☆その他の製鉄関連の遺跡<br>☆口田儀の港・町並み<br>☆鷲銅山跡<br>☆鶴峠鉾山跡<br>☆鰐淵鉾山跡<br>☆島根半島の港 など  |
| (8) うみとかわの恵み<br>～水辺の生業～                         | ○日本海、宍道湖・神西湖、斐伊川・神戸川など“水辺”の産物にちなんだ関連文化財群<br>◎遺跡や出土品、民俗資料、現在も守り継がれている漁をとおして水辺の生業の歴史を見て、知って、学べる                                       | ★猪目洞窟遺跡の出土品<br>★矢野遺跡(矢野貝塚)<br>★鰐淵寺文書ほか(十六島のりの礼状)<br>☆上長浜貝塚<br>☆御領田遺跡<br>☆宍道湖・神西湖のシジミ漁<br>☆神戸川の四つ手網・アユ漁<br>☆十六島のり<br>☆漁労関連の民俗資料 など                   |
| (9) 地域に息づく民俗芸能や習俗<br>～神々のふるさとのくらしの文化～           | ○無形民俗文化財を中心とした関連文化財群<br>◎神々のふるさとに息づく神楽や舞などの伝統的な行事・習俗などを見て、知って、学べる   | ★大土地神楽<br>★埴田神社青獅子舞<br>★須佐神社の念仏踊り<br>★多久神社のささら舞<br>★大社町の吉兆神事<br>★平田一式飾<br>★大社町の吉兆幡 など   |
| (10) 出雲の文芸と学問<br>～出雲大社の社家や旧家、私塾跡などからたどる文化～      | ○近世、出雲市では梅廼舎、有隣塾、包蒙館などの私塾が開かれ文芸や学問が発展しており、これらに係る関連文化財群<br>◎私塾の跡地を訪れ、古文書を紐解くことでこの地で花開いた学問の歴史が学べる                                     | ★石橋家住宅<br>★いなさ会館<br>★佐田町八幡原「岩崎家文書」<br>☆梅廼舎跡(都稻荷社前)<br>☆包蒙館跡<br>☆手銭家文書<br>☆秦家文書(塩治神社文書)<br>☆富永家文書 ほか   |
| (11) 海・川・陸のみちと町場の形成<br>～多様な交通手段を生かした交流・交易とくらし～  | ○北前船をはじめとした海上交通、斐伊川や神戸川、平田船川などにおける舟運、そして街道を通じた交易・交流と形成された町場にちなんだ関連文化財群<br>◎かつて物流で利用された港や水路、社寺への参詣道や旧山陰道を通して、この地の水運や物流、参詣道の変遷の歴史を学べる | ★出西・伊波野一里塚<br>★石橋家住宅<br>★藤間家住宅<br>☆藤間家文書<br>☆木綿市(杵築、今市、平田、直江)<br>☆島根半島の港・集落(町場)：宇龍、鷲浦、十六島、小伊津<br>☆口田儀の港・集落(町場)<br>☆平田船川、高瀬川などの河川<br>☆旧山陰道などの街道・往還など |

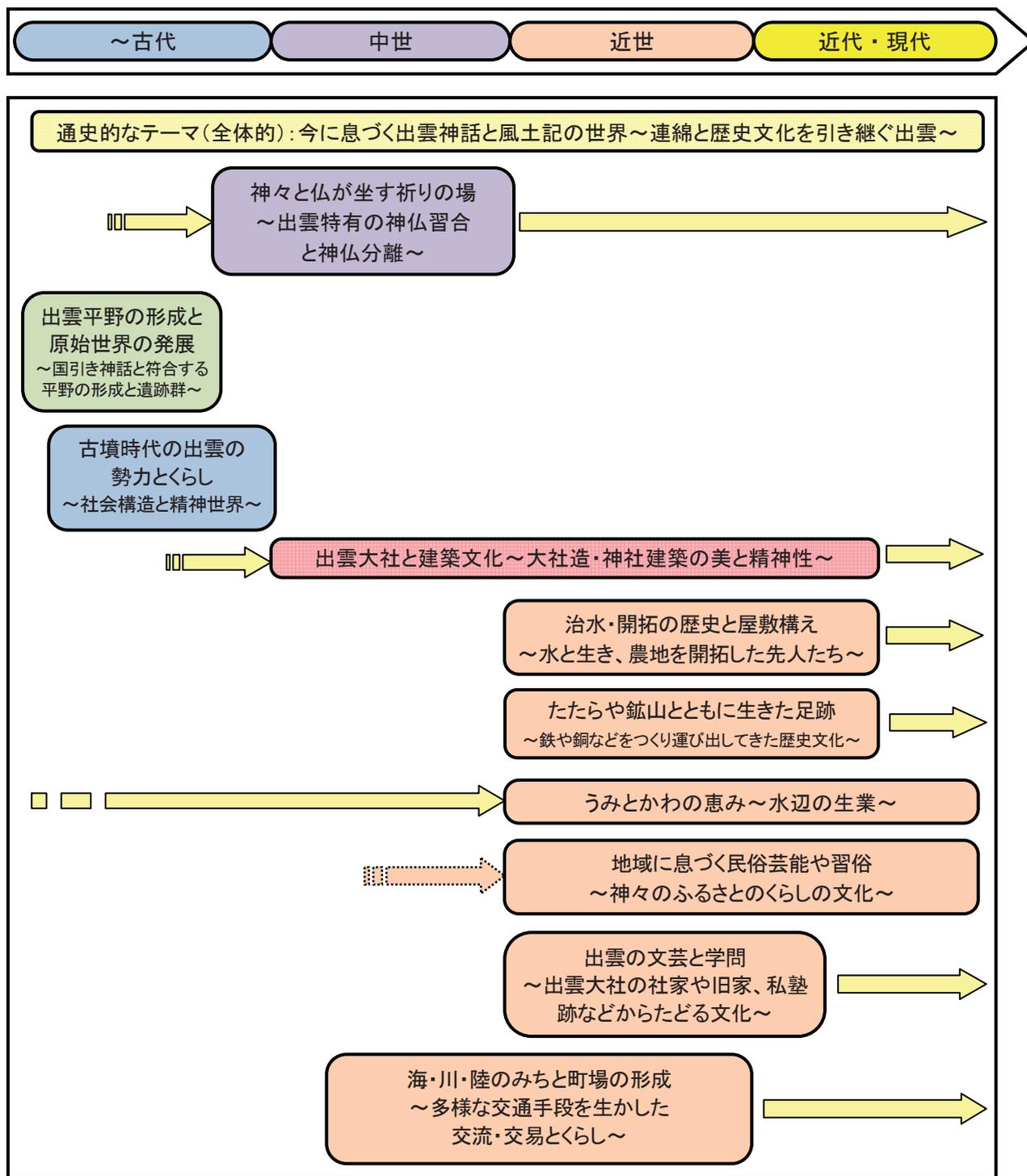


図 3-2 関連文化財群の時代的な位置づけのイメージ

## 第2節 関連文化財群の特色と取組方向

### 1 関連文化財群の分布と特色

#### (1) 今に息づく出雲神話と風土記の世界～連綿と歴史文化を引き継ぐ出雲～

##### 【関連文化財群のストーリーと特色】

出雲神話は『古事記』や『日本書紀』、『出雲国風土記』に記されている出雲にちなんだ神話の総称で、八岐大蛇神話、国譲り神話、国引き神話などがあり、出雲市域も中心的な舞台となっています。

『古事記』(712年)や『日本書紀』(720年)には、スサノオの八岐大蛇退治など、出雲を舞台とした神話が記されています。

『出雲国風土記』(733年)には、『古事記』や『日本書紀』には記されていない地名やその由来(神門郷ほか)、特産品(紫菜ほか)、伝承(佐香郷ほか)などの地方の情報も詳細に記され、その中には国引き神話をはじめとする地域色豊かな神話が盛り込まれています。

「今に息づく出雲神話と風土記の世界」は、今も身近に存在する記紀・風土記の伝承地、登場地、記載事項などに由来する関連文化財群であり、連綿と引き継がれた神話や風土記に記された場所を、今でも見て、知って、学び・楽しむことができます。

##### 【主な構成要素(歴史文化)】

###### ■有形：もの

- ★出雲大社
- ★日御碕神社
- ★須佐神社
- ★土椋烽
- ☆長浜神社
- ☆韓竈神社
- ☆朝山六神山

など

###### ■無形：こと

- ★大土地神楽
- ★県指定の無形民俗文化財：見々久神楽など
- ★市指定の無形民俗文化財：乙立神楽など
- ☆その他無形民俗文化財
- ☆伝承されてきた神話：八岐大蛇神話、国引き神話

など

###### ■その他

- ☆地名・地域：菌の長浜(稲佐の浜)、杵築、日御碕

など



須佐神社(本殿)



菌の長浜(稲佐の浜：中村唯史氏提供)



図 3-3 「今に息づく出雲神話と風土記の世界」における主な構成要素(歴史文化)

## (2) 神々と仏が坐す祈りの場～出雲特有の神仏習合と神仏分離～

### 【関連文化財群のストーリーと特色】

旧暦10月の神在月に全国から八百万の神々が集まり、神議りが行われる出雲大社は、「國中第一之霊神」と平安時代の文書に記されています。この出雲大社の北東側、北山山系(p15 図1-4 参照)に位置する鰐淵寺は、古来より浮浪滝を中心とした修業の場であり、中世には数多くの堂塔や僧坊が建ち並び、「國中第一之伽藍」と呼ばれていました。出雲大社と鰐淵寺は、それぞれ神社・寺院として組織的・空間的・機能的に明確に区別されながらも、両者が相互補完的に一体となって機能する「神仏隔離原則に基づく神仏習合」により密接に関係し、ともに隆盛を極めました。しかし、寛文6年(1666)には約400年余りに及ぶこの関係に終止符が打たれ、他地域に先駆けて神仏分離が実現することとなります。

出雲大社と鰐淵寺はともに国引き神話で最初に引き寄せられた北山山系に位置していますが、この北山山系にある鰐淵や日御碕は、平安時代末期の『梁塵秘抄』に「聖の住所」、つまり仏教者の修業の地として記されています。そして、中央の仏師により作られた9世紀頃の仏像群が納められている大寺薬師(萬福寺)も、北山山系の南東山麓に位置しています。さらに北山山系には、かつて出雲大社や鰐淵寺を訪れる際に利用された参詣道が残るほか、鰐淵寺の山号「浮浪山」にちなんだ「不老山」を号する寺院も、法統を守り継いでいます。

このように北山山系には、出雲市における信仰の歴史を語るうえで欠くことのできない寺社などが集中しています。

「神々と仏が坐す祈りの場」は、出雲大社と鰐淵寺、そして日御碕神社や大寺薬師の仏像により信仰の歴史を紐解く関連文化財群であり、国宝や重要文化財、史跡をはじめとした数多くの文化財、さらにはこれらの寺社の立地するエリアの歴史文化をネットワーク化させるものです。

### 【主な構成要素(歴史文化)】

#### ■有形：もの

- ★出雲大社
- ★日御碕神社
- ★鰐淵寺境内(史跡)
- ★鰐淵寺の神像仏像(銅造観音菩薩立像など)
- ★大寺薬師(萬福寺)の仏像
- ★関連文書(千家家・北島家・鰐淵寺文書など)
- ☆鰐淵寺境内の四至・峠・一丁地藏

#### ■その他

- ☆出雲大社領(12郷)
- ☆鰐淵寺領(国富郷、漆治郷)
- ☆松林寺
- ☆不老山長谷寺、不老山神光寺、不老山莊嚴寺、不老山靈山寺

など



出雲大社



鰐淵寺境内の摩多(陀)羅神社



### (3) 出雲平野の形成と原始世界の発展～国引き神話と符合する平野の形成と遺跡群～

#### 【関連文化財群のストーリーと特色】

出雲平野は、約4000年前の縄文時代後期、三瓶山<sup>さんべさん</sup>の噴火による多量の土砂を供給源として形成が進みました。約2000年前の弥生時代には、斐伊川<sup>ひいかわ</sup>と神戸川<sup>かんだがわ</sup>の三角州が島根半島まで達し、現在の出雲平野の原形ができあがりました。

こうした出雲平野の形成と合わせた原始における人々の営み・足跡は、一帯に残されている多くの遺跡によってうかがい知ることができます。これらを概観すると、縄文時代はまだ形成途中であったため人々が生活できる場所も限られていた出雲平野に、人が進出し多くの集落が出現するのは弥生時代に入ってからだということが分かります。縄文時代には狩猟採集を主とした食糧調達、弥生時代に入ってから稲作を中心に行われるようになり、広大な土地と水源に恵まれた出雲平野は集落運営に格好の舞台となりました。

この広大な出雲平野の生産力を背景に大きな勢力をもつ集団も出現したようです。その証としては大量の青銅器が出土した荒神谷遺跡<sup>こうじんだに</sup>が挙げられます。ここで見つかった358本の銅剣は、発見当時に日本中で出土していた銅剣の総数を上回っており、弥生時代中期のこの地に大きな勢力があったことが裏付けられました。そして弥生時代後期には、西谷墳墓群<sup>にしだにふんぼくぐん</sup>に大型の四隅突出型墳丘墓が次々と築かれます。これらは墓の規模や豪華な副葬品からまさに王墓と呼べるものです。この時期に「出雲王」が出現し、出雲平野のムラムラを次第にクニとしてまとめていったと考えられます。

出土品に着目すると、当時の他地域交流が見えてきます。荒神谷遺跡から見つかった銅鐸6個と銅矛16本は、それぞれ近畿と九州を中心とした分布域を示し、出雲は東西文化の結節点にあることが分かります。また、西谷墳墓群の2号墓や3号墓では、大陸からもたらされたガラス製品や水銀朱のほか、吉備から運び込まれたり、北陸の特徴が認められたりするお祭りの土器が大量に出土しています。これらの例から、弥生時代には他地域との交流が活発に行われたことが分かります。

「出雲平野の形成と原始世界の発展」は、出雲平野の形成に伴って人々の生活の場が増加・変遷、発展していく様子を示す関連文化財群であり、縄文時代以降は少なかった集落が弥生時代中期に増加し、後期にはクニへとまとまり栄光の時代を迎え、他地域とも活発に交流していた姿をうかがい知ることができます。

#### 【主な構成要素(歴史文化)】

##### ■有形：もの

- ★荒神谷遺跡と出土品
- ★西谷墳墓群と出土品
- ★猪目洞窟遺跡と出土品
- ★出雲大社境内遺跡(出土品)
- ★真名井遺跡(出土品)
- ★矢野遺跡(矢野貝塚)
- ☆下古志遺跡

など

##### ■その他

- ☆荒神谷博物館、出雲弥生の森博物館
- ☆斐伊川、神戸川
- ☆神西湖(神門水海)

など



荒神谷遺跡



猪目洞窟遺跡

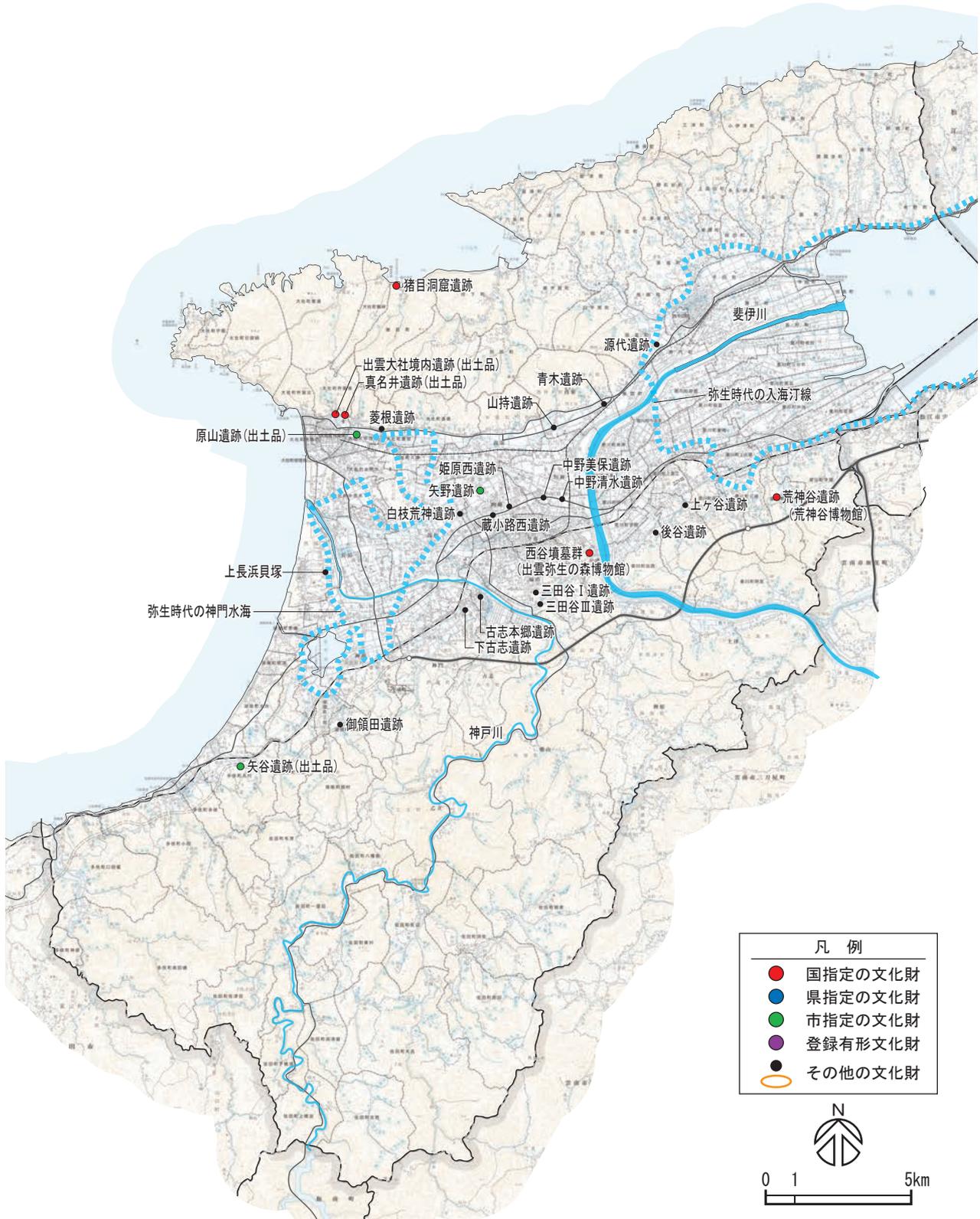


図 3-5 「出雲平野の形成と原始世界の発展」における主な構成要素(歴史文化)

## (4) 古墳時代の出雲の勢力とくらし～社会構造と精神世界～

### 【関連文化財群のストーリーと特色】

古墳時代に入ると、初頭には古志本郷遺跡や下古志遺跡などから大集落の解体・縮小がうかがえます。中期には中野美保遺跡や浅柄遺跡などで集落の出現が認められ、後期になると三田谷Ⅰ遺跡、九景川遺跡などが加わり集落数が増加し始めます。

こうした集落の増減と呼応するように、前期と中期には数少なかった古墳が、後期には一気に増加するとともに、大規模首長墓も登場します。

出雲西部を掌握していた歴代の首長墓と考えられているのが今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳・上塩冶地蔵山古墳です。今市大念寺古墳は県内最大の前方後円墳で、石室には九州系譜のものと考えられる日本最大の家形石棺があります。上塩冶築山古墳は、その周りを小規模な円墳群と横穴墓群に取り巻かれており、当時の社会構造を如実に示しています。また、近年の国富中村古墳の調査では、埋葬から時間が経過した後、石棺の蓋を人為的に壊すなど、死者の復活を阻止する儀礼(再生阻止儀礼)が確認され、当時の人々の精神世界や死生観が明らかになってきました。

これらの古墳のなかには石室内が自由に見学できるものがあるほか、現地に説明板やパンフレットが設置されており、古墳時代の世界や特色を現地で体感することができます。

「古墳時代の出雲の勢力とくらし」は、当時の社会構造や人々の精神世界などをうかがい知ることができる古墳をはじめとした関連文化財群であり、出雲平野とそれを見下ろす中国山地及び北山山系の丘陵地・山麓部に位置する古墳を中心に、古墳と周辺・背景の景観を体感しながら、古墳時代に思いをはせることができます。

### 【主な構成要素(歴史文化)】

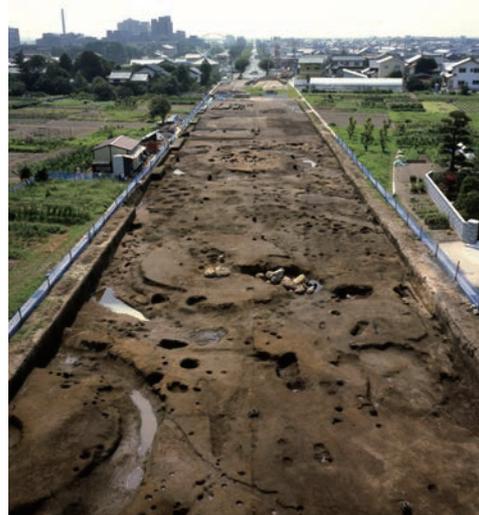
#### ■有形：もの

- ★今市大念寺古墳
- ★築山古墳群(上塩冶築山古墳など)
- ★国富中村古墳
- ★西谷墳墓群
- ★北光寺古墳
- ★神庭岩船山古墳
- ★矢野遺跡(矢野貝塚)
- ☆中野美保遺跡
- ☆上石堂平古墳

など



国富中村古墳の石室内



築山古墳群

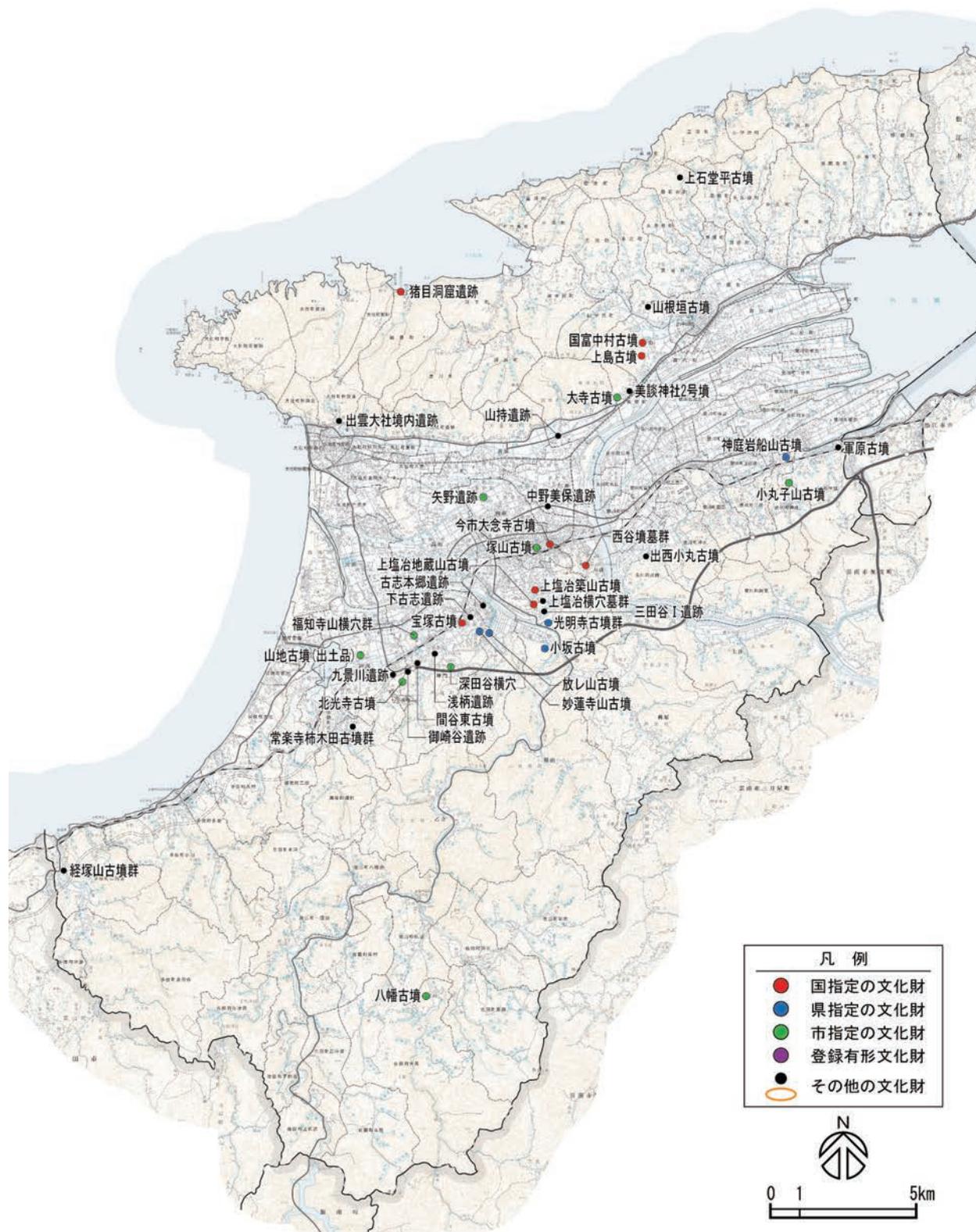


図 3-6 「古墳時代の出雲の勢力とくらし」における主な構成要素(歴史文化)

## (5) 出雲大社と出雲の建築文化～大社造・神社建築の美と精神性～

### 【関連文化財群のストーリーと特色】

出雲市には、国宝の出雲大社本殿、重要文化財の出雲大社楼門・<sup>しんせんじよ</sup>神饌所・玉垣等、日御碕神社社殿、県指定の文化財である須佐神社本殿、出雲大社境外社をはじめ多数の神社建築があります。

これらの多くは建築様式からみると、出雲大社本殿に代表される<sup>たいしやづくり</sup>大社造やその変形です。広義の大社造とは切妻造妻入で、主屋に<sup>きざほし</sup>木階の<sup>はしかくし</sup>屋根（階隠等）が付くものを指します。平成 27～28 年度に行った市内の神社建造物<sup>しつかい</sup>悉皆調査では、大社造及びその変形が8割近くを占めていることが分かりました。主な大社造としては、阿須伎神社（<sup>あずき</sup>遙堪）、佐香神社（東）、大宮神社（<sup>うさぎ</sup>鶺鴒）、宇賀神社（国富）などがあり、中山間地を含め市内全域に立地しています。これらは、平面形から8形式に分類でき、地域的な違いや時代的な変遷が浮かび上がってきました。

また、全国で最も多い流造は出雲では少なく、重要文化財の出雲大社末社十九社本殿の他、朝山八幡宮（高松）、<sup>えんや</sup>塩冶神社（塩冶）、高濱八幡宮（高浜）などがあります。通常の流造では横に長い長方形が多いですが、出雲には方形平面の本殿が複数あり、大社造の影響が考えられます。その他春日造などの形式にも大社造の影響が勘案でき、この地域における大社造の意味を考えるうえできわめて示唆的な事象といえます。

一方、これらの神社の多くでは神事が行われるとともに、神楽の由来・舞台となる神社も少なくありません<sup>※1</sup>。

「出雲大社と出雲の建築文化」は出雲地域を特徴づける大社造を中心に、建築を通じて神社をつなぐ関連文化財群であり、出雲の神社建築とその美をつくり、継承し、生かしてきた精神性などを見て、知って、学ぶことができます。

### 【主な構成要素(歴史文化)】

#### ■有形：もの

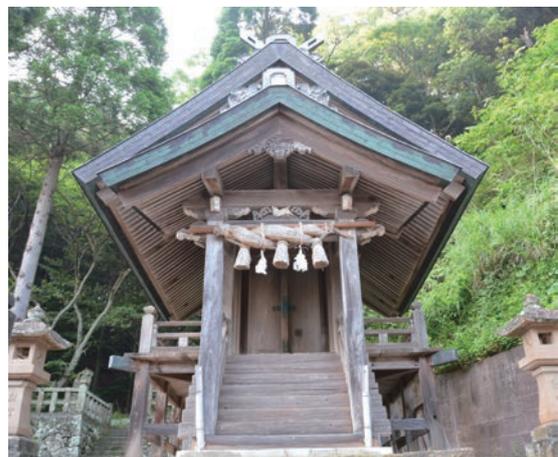
- ★出雲大社
- ★日御碕神社
- ★須佐神社
- ★出雲大社境内遺跡出土品<sup>いのちぬしのやしる</sup>
- ★命主社本殿

- ☆長浜神社
  - ☆韓竈神社
  - ☆伊奈西波岐神社<sup>いなせはぎ</sup>
  - ☆佐香神社
  - ☆玖潭神社<sup>くたみ</sup>
  - ☆立虫神社・<sup>まんくせん</sup>万九千神社
  - ☆青木遺跡
- など

※1 「(9) 地域に息づく民俗芸能や習俗～神々のふるさとのくらしの文化～」を参照



国宝出雲大社本殿



大宮神社本殿

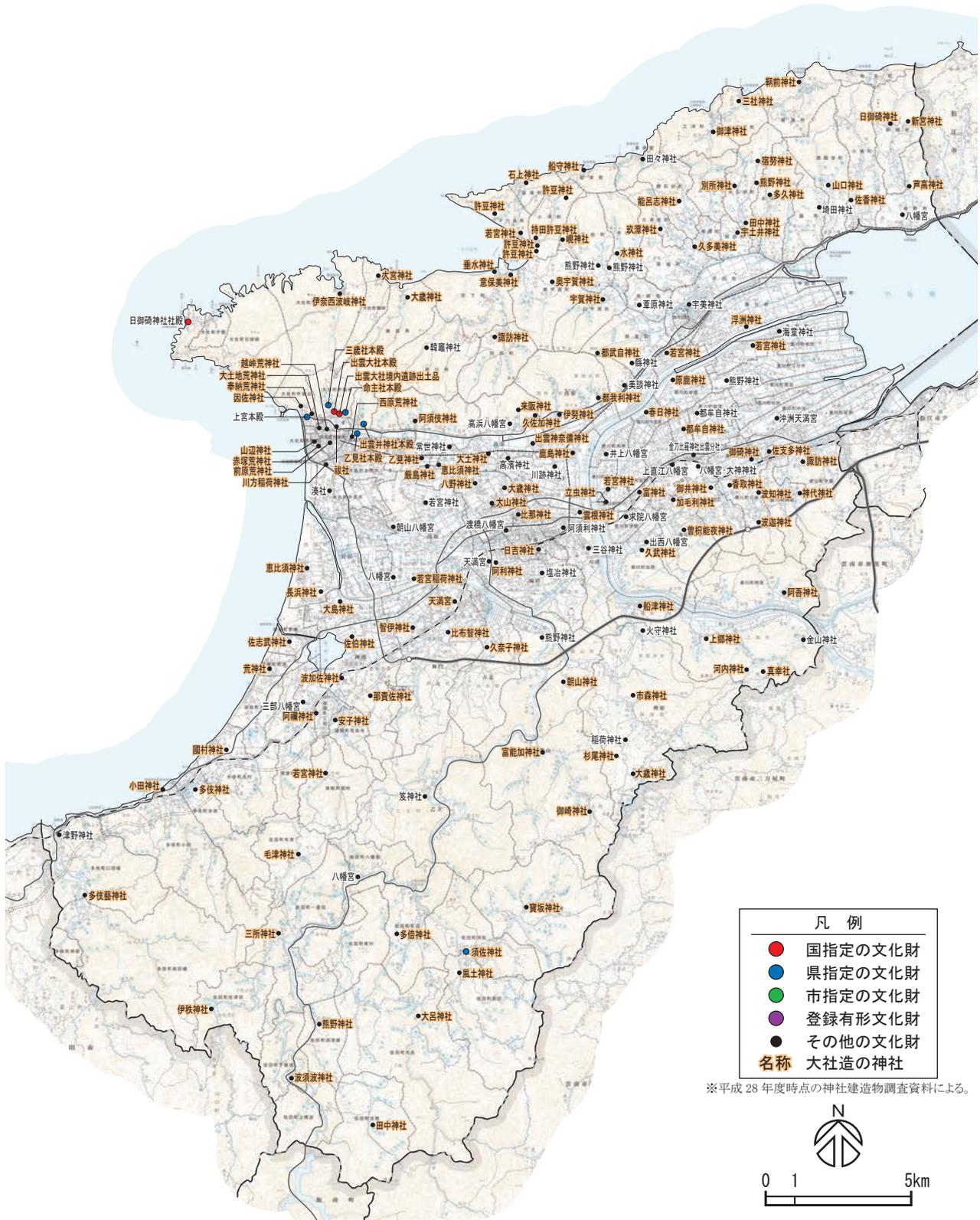


図3-7 「出雲大社と出雲の建築文化」における主な構成要素(歴史文化)